

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名 : 鴨川祐子 所属 : 長崎市立銭座小学校 記録日 : H29年2月8日
○キーワード : 「不安障害」「ストレス」「見通し」「読み書き支援」「コミュニケーション」「情報の共有」

【対象児の情報】

- 学年 小学校4年生
- 障害名 ◎アスペルガー症候群 ADHD 強迫性障害
- 障害と困難の内容

【心理面】

- ・不安の状態が続き、精神的に安定することがなく、強迫性障害の症状が強く出ている。
- ・過度にきちんとして、正しくやりたいという思いで取り組み、常に緊張した状態で全力投球する。
- ・失敗したら許せない気持ちがあり、ストレスに感じてしまう。
- ・他者からの様々な刺激を過敏に受け取り、パニック状態になることもある。

【生活面・対人関係】

- ・対人関係がうまくいかず、悩むことが多い。要領や優先順位を決めることが苦手で、見通しを持つことがうまくできない。
- ・周りの友達の解釈とずれたり、他の人の視点に気づきにくいいため、状況の理解の仕方が異なり、それがストレスとなってしまう不安を高めてしまう。
- ・初めてするような活動や課題について、持っている能力を発揮しづらい。

【学習面】

- ・知的な能力が高く、特に、ことばの読みや文の理解などの「読み」に関する内容を多く習得している。
- ・見通しを持つことが難しく、不注意のために、作業に多くの時間がかかったり、継続が困難だったりする。
- ・書くことに抵抗があり、特に、家庭学習に対しては、意欲が低い。
- ・特に、技能教科では、始めてから終わるまでに、十分な時間や見通しが必要である。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ・活動の見通しや確認の方法を持つことで、安心して学習や活動に向かうことができる。
 - ・気持ちを伝えたり、共有したりする選択肢を増やすことで、人との関わりを増やしていくことができる。

- 実施期間 平成28年4月～平成29年2月
- 実施者 鴨川祐子 ○共同研究者 横山耕介 泉セシリア
- 実施者と対象児の関係 鴨川・・・通級指導教室の担当として
横山・・・通常学級の担任として
泉・・・教育実習生（通級指導教室）として

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

【心理状況】

・常に不安が付きまとい、強迫性障害の症状が多く出ている。(不潔や汚れに関するもの・・・いつも手を長い間

洗っている、手を洗った後は、物に触れない、消しゴムのカスが気になるなど。確認行動・・・忘れ物がないか何

度も見直す)

・学級で朝からの健康観察の時、いつも体調不良を訴えていた。

・イメージと実際の動きが結びつかないことがある。

・マイナス部分に注目しがちである。

【生活面・対人関係】

・不注意や本人のこだわりの行動により、学習や給食の準備、連絡帳を記入する等、かなりの時間がかかり、いつも慌てている。

・整理整頓も苦手で、物のある場所がわからなくなったり、どこに置いたかわからなくなったりして、パニックを起こしてしまう。

・特定の友達としか遊びたがらない。友達に対して、自分流の思いをストレートに伝えてしまったり、話しすぎたりして、心の裏を読み取ることができないことも多い。自分中心に考えてしまうことが多く、周りの人の気持ちに寄り添うことが難しい。

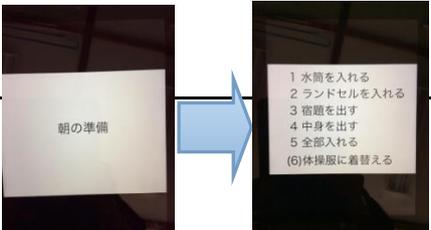
【学習】

・国語の書くことに対して、抵抗を持ち、活動が進まないことが多く、かなりの時間がかかり、不安を抱えている。また、練習してもなかなか身につかないことが多く見られた。

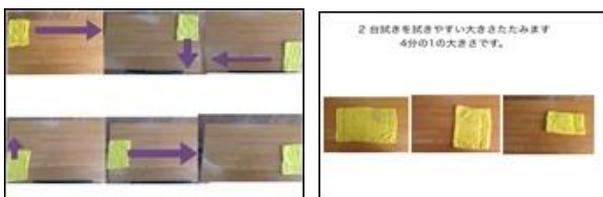
・家庭学習の取組やノートテイクには、時間がかかり、スムーズに進めることができないため不安が大きい。不安を解消するため、ドリルワークシートを導入するよう担任や家庭と相談している。

○活動の具体的内容

1 活動の見通しや確認の方法を持つことについて

使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
 Keynote	<p>○見通しを持って活動ができる手順表を提示し、自分で行動ができるようにした。朝からの学習準備、給食着のたたみ方、机のふき方について、スムーズな行動方法を考え、1日のスケジュールを自作した。この画像を使い、毎日実践して実践力をつけるようにしてきた。家庭でも作成したデータを見ながら実践することで、手順良く行い、安心することができるようにした。</p> <p>手順の作成</p> 	<p>○これまでの生活での困り感について、じっくり向き合って話を進めている。話合いの中で、本人が行っている行動の流れを確認し、うまくできていないことについての見通しを持つための手順を本人が決め、Keynoteを使い、自分で作ることができた。自分で作ったので、自分に合った方法で実践するこ</p>

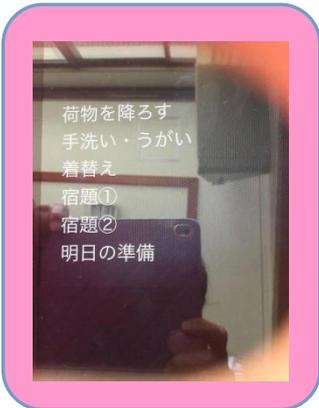
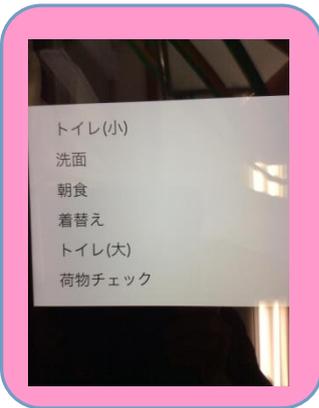
○給食の当番の仕事にもかなり時間がかかっていたので、「給食着のたたみ方」や「台ふきの仕方」を提示し、それを見ながら行うようにした。



家庭用手順表作成

起きてから家を出るま

帰宅後～寝るまで



とができ、スムーズな活動が見られるようになってきた。

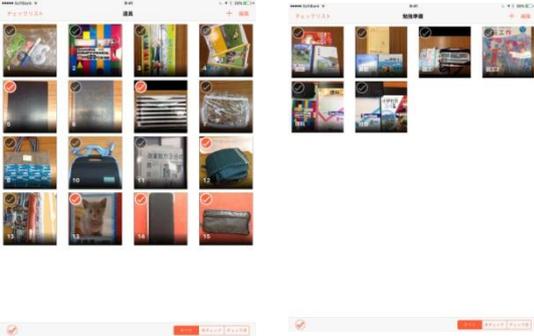
○時間短縮することができ、安心できるようになってきた。本児だけではなく、在籍学級の児童も、うまくできない子は一緒に行うことで、更に安心感が増してきたようである。



○自分だけではなく、学級の友達と一緒にいたり、両親と一緒に活動したりしたことで、同じことに取り組む安心感を持ち始め、活動にかかる時間も徐々に減り、時間内にできるようになってきた。

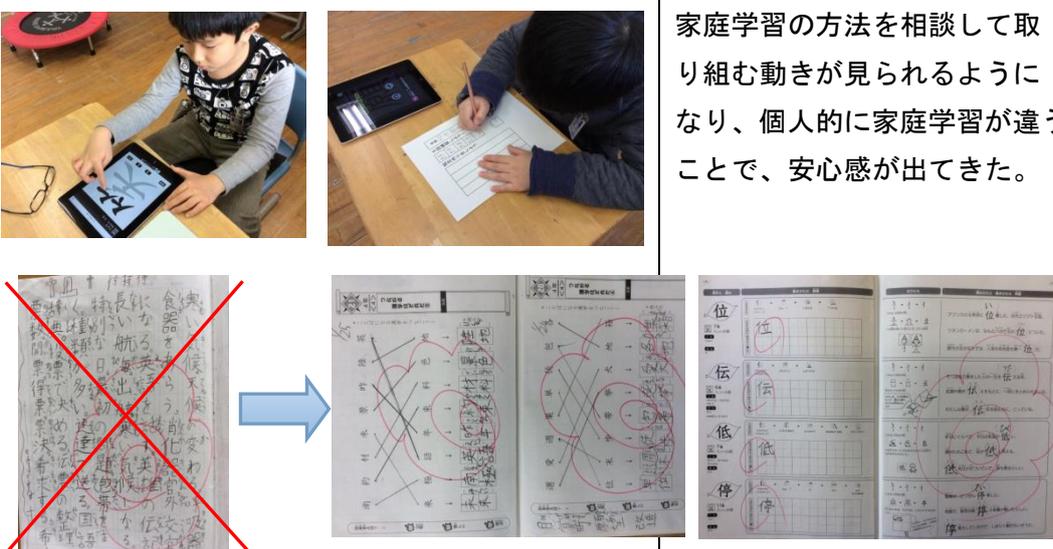
○家庭での様子を聞き取ると、朝から家を出るまでや帰宅してから寝るまでの時間の使い方がよくないということだったので、保護者と相談して、父親が手順表を作成してくれた。最近では、本人も早く寝ることができるように、意識して動けるようになってきた。朝の登校時刻も、15分ほど早くなってきて、朝の時間は、余裕を持って過ごすことができるようになってきた。

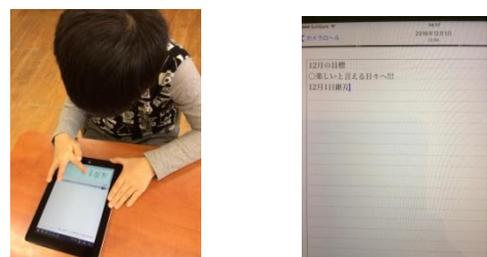
使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
	<p>○準備の見通しが持てるように画像を提示し、自分でチェックできるようにした。必要な学習道具、持っていく物の準備を安心して行うことができるよ</p>	<p>○忘れ物がほとんどなくなり、忘れていないかの本人の過度なチェックがなくなった。</p>

<p>P i c t C h e c k c k</p>	<p>うにした。教科ごとにセットにしたり、金曜日に持ち帰る物セットや学習に必要な小物類のチェック表を作ったりしてきた。</p> <p>忘れ物をしたり、物をなくしたり、どこに置いたかわからなくなってしまうという実態や困り感から、各教科の学習用具をひとまとめにしたものと、ほかに必要な道具をチェックできるようにした。</p> 	<p>○視覚的に見通しが持ちやすかったため、便利だと言っていた。</p>
----------------------------------	--	--------------------------------------

使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
 <p>Keep Timer</p>	<p>○活動の見通しを持つことができるようにタイマーを提示し、自分で時間を決め意識した活動を行ってきた。考えをまとめたり、トレーニングをしたりするときなどに行った。通級指導教室の活動だけではなく、通常学級や特別教室での授業でも同じタイマーを使うことで、安心感を持たせてきた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="279 1317 608 1384" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #ADD8E6;">通級指導教室</div> <div data-bbox="900 1317 1267 1384" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #ADD8E6;">在籍学級</div> </div>    	<p>○タイマーは、通級指導教室での活動だけではなく、在籍学級の学習や給食時間など、学級全員の児童も一緒に行うことで、共通した時間を意識させることができた。</p>

使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
 <p>常用漢字</p>	<p>○家庭学習や漢字の習得に使用し、書き方順や使い方を確認できるようにした。書くことに対する不安が多かったため、まずは、楽しく緊張せずに書くことができるようにした。ノートに書くことは、消しゴムのかすが出たり、うまくできなかつたら書き直</p>	<p>・書くことが好きではない漢字の学習については、覚えていない漢字を中心に、筆順辞典で書き順や意味・使い方を確認した。その後、プリントに練習を</p>

<p>筆順辞典</p>	<p>すという行為がとても気になっていたので、ノートに書く量を減らすことで、漢字の学習ができない不安を軽減することができる工夫をしてきた。</p> <p>○家庭学習においても、不安な気持ちやいやいや度が大きかったので、ノートに直接練習するのではなく、ワークシートやプリントに練習するようにした。</p>	<p>するという流れで行った。楽しみながら興味を持ってすることができ、覚えも早くなった。</p> <p>○家庭学習をすることについての抵抗感が減り、負担に思わずできるようになってきた。また、在籍学級でも、他の児童に対しても、合理的配慮として、家庭学習の方法を相談して取り組む動きが見られるようになり、個人的に家庭学習が違うことで、安心感が出てきた。</p>
		

使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
 <p>7note</p>	<p>○漢字の学習や短文づくりに使用した。手書きで入力し、活字に変換されることがとてもすごいことだと気に入り、きれいに丁寧に書かないと気が済まない特性から、とても有効的だと判断し使用してきた。</p> 	<p>○7NOTEは、作文や単文作り、行動目標の作成に使用することで、書くことへの抵抗を減らすようにした。ローマ字入力が好きなので抵抗なく行い、出来上がりも早いので満足していた。</p> <p>○家庭学習においても、不安な気持ちが大きかったので、楽に見通しを持ちやすい方法で行い、安心することができた。</p>

使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
	<p>○月や週の予定を書き込み、見通しを持ちやすいようにした。予定を事前に把握することで安心することができた。楽しいことへの喜びを感じながら書き込むことができた。</p>	<p>○学校や学級の行事を把握したり、家庭での予定を書き込んだりすることで、安心できるようになった。少しでもポジティブ</p>

ジョルテ カレンダー & システム手帳		ブな気持ちになれるように、細かく話をしながら進めた。
---------------------------	---	----------------------------

2 気持ちを伝えたり、共有したりする選択肢を増やすことにつ

	支援場面と支援方法	対象児の変化
 <p>かめら絵日記</p> 	<p>○伝えたい内容を画像で共有し、アプリを使うことで負荷を減らした。書きやすさを支えられるカメラ機能付きで、簡単にコメントを書くことができるので、日々のできごとや心に残ったことを伝えるために、1学期の終わりから取り組み始めた。自分の周りのことやできごとに対して目を向けられるように、書くことの選択肢をヒントとして与えてきた。最初は、手書きであったが、ローマ字入力で行うようになり、書く機会を多く取り入れた。様子や感じたことをコメントしておくことで、作文など文章化する時に自分の思いを確認して書く見通しが持ちやすくなった。</p> 	<p>○始めは、テーマを決めたり何を写そうか悩みながら行っていたが、最初に自分の家にいる大好きな猫をテーマにしてやってみてからは、家の中のことや旅行に行ったときのことが書けるようになってきた。また、手書きから始まったが、上手にローマ字入力を使うようになりスムーズに作業が進むので、悩むことなく行っている。</p> <p>○家庭での実践は、楽しかったことを中心に、自分から積極的に作成することができるようになり、気持ちを伝えようとする気持ちを感じることができた。</p>

使用したアプリ	支援場面と支援方法	対象児の変化
	○家庭学習や準備物についての不安を解消し、いつで	・家庭学習や準備物について



ByTalk
for
School

も相談できるように、本児と担任と通級担当の3人で気持ちを伝えあった。



の不安を解消し、いつでも相談できるように、本児と担任と通級担当の3人で気持ちを伝えあった。最初から興味を持ち取り組み始めた。文章やスタンプ・絵文字等を使いながら、自分の思いを表現できるようになった。わからないことを積極的に聞くことができ、自分の気持ちを伝えたり、相手のことを気遣う気持ちが表れたりした。

使用したアプリ

支援場面と支援方法

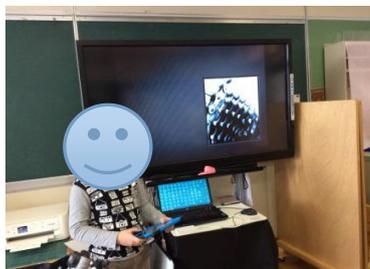
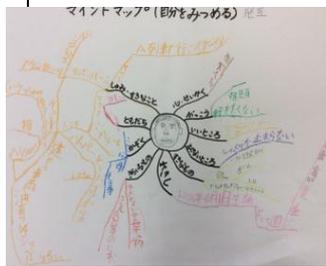
対象児の変化



Keynote

○自分取り扱い説明書を作成する手順を示し、思いを共有できる機会を作ることで安心できるようにした。
○「自分取り扱い説明書」を作ろう！というテーマで、自分を見つめ、自己理解から他者理解へと活動を仕組み、お互いを支え合うための取組を行った。本児が取り組んだことを在籍学級で紹介し、それを参考に全員が作成することで、更により良い人間関係を築くことができるようにした。
○友達から評価をしてもらう「いいこと四面鏡」、紙媒体での「自分取り扱い説明書」、Keynoteでの「自分取り扱い説明書」を作成し、全員の前で発表し、一人一人の人権を大切に考えるようにしている。
3学期中に完成させ、5年生での学級でも、利用するようにしている。

○長い時間をかけてKeynoteで作成した取り扱い説明書は、電子黒板で発表することができ、とても喜んでいた。友達がわかってくれた反応に安心した様子であった。
○学級の友達も、真剣に聞いてくれ、説明が分かりやすかったと言ってくれたので、満足していた。
○外部の授業参観の時も、発表することができ、思いを聞いてもらい喜んでいった。



【 報告者の気づきとエビデンス 】

○報告者の主観的気づき

①活動の見通しや確認の方法を持つことで、学校や家庭で、不安が減り、安心して学校生活を送れたので

はないか。

②ICTを使って、気持ちを伝えたり、共有したりする選択肢を増やすことで、自分の思いや考えを多くの人に工夫して伝えたり、表現の方法の広がりができたりしたのではないか。

○気づきに関するエビデンス

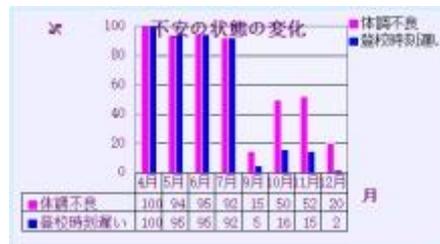
1 活動の見通しや確認の方法を持つことについて

安心して学べる姿が増えた！



・本児が得意とする読む力を使いながら、書くことに対しての見通しを持ったり、できる道筋を知らせていくように選択肢を増やすことで、毎日の生活に安心感が増えてきた。学校や家庭の生活の中で、うまくできなかったことが手順良くできることで、行動がスムーズになり、気持ちの安定へと繋がってきた。

手順表を使うようになってから、体調不良を訴えることや登校時刻が遅れることがかなり減ってきた。



・家庭学習について、iPadのアプリを使ったり、漢字を書き込めるワークシートに変更したりしたことで、気持ちが楽になり、抵抗感が減った。書くことに対しても、充実感を味わうことができるようになってきた。

・学習の見通しを持ち、確認できるように、iPadを使ってインターネットの利用や辞書アプリでの調べ学習も有効であった。確認の見通しが持てるようになり、調べる方法やまとめ方に対しての不安がかなり減ってきた。

・消しゴムのかすを気にしたり、書いたところで手が汚れるのを嫌っていたりしていたことが、ほとんどなくなり、学習に集中できるようになってきた。

・忘れ物をすることもほとんどなくなり、するべきことに集中できるようになった。

2 気持ちを伝えたり、共有したりする選択肢を増やすことについて

伝える選択肢が増えたことで、自分の気持ちを伝えることができるようになった！

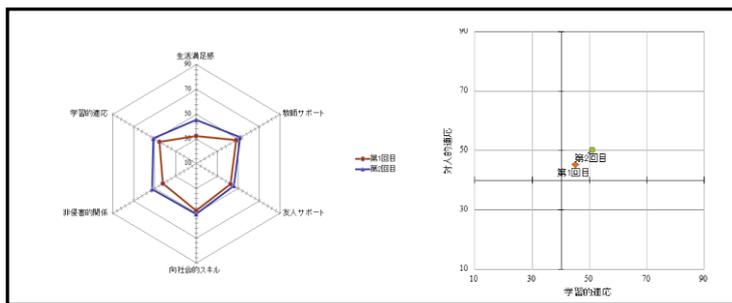
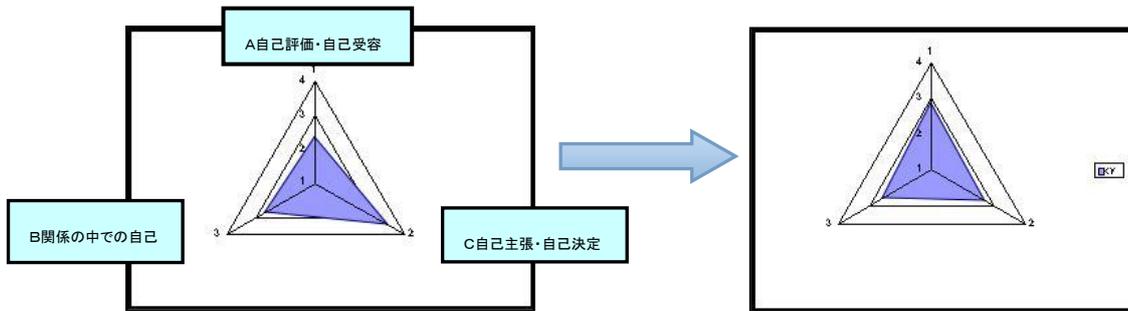


・BY TALK FOR SCHOOLやメールを使い、伝えるための表現の方法（文字やスタンプや顔文字等を使うコミュニケーション）や共有の仕方について、選択肢を増やしていったことで、すぐに聞ける、すぐに思いを伝えられる、楽しみながら伝えられることができ、担任と通級担当とのつながりも強く

なってきた。学級でも、困ったときや悩みがあるときなど、担任にすぐに聞けるようになってきた。通級担当へも、思っていることを素直に伝えられるようになってきた。

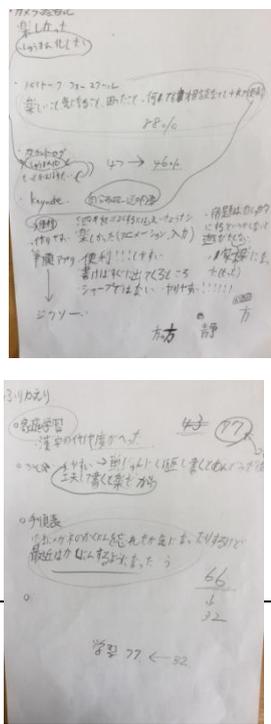
- ・ Keynoteでの取組は、「自分取り扱い説明書」を作成して、学級の全員に自分のことを伝えることができ、安心感を持つと同時に、自分の思いも友達に対して伝えやすくなってきた。また、全員で取り組んだことで、情報共有ができ、お互いの理解へと前進した。

- ・ 家族との連携で、親子間・学校と家庭間・外部機関と家庭と学校間の関係が深まり、互いに話をしていく中で、理解し合えるようになってきた。まだ、十分ではないが、思っていることを話すことができるようになったことで、子どもの成長の力へとなっている。



○自尊感情のチェックでは、大きな変化はないが、全体的にバランス良くなってきており、自分のことを見つめることができはじめています。

○ASSESUでは、1回目より2回目が全体的に向上し、特に問題点が出ていない状態である。学級の中での、安心感が増えたことや周りの子どもたちの成長も感じられる。



○本人の振り返りから・・・アプリを使って取り組んだことで・・・

- ①家庭学習は自主的にしないと遊びたくない気持ちになった。家で今までより楽になった。
- ②漢字のイヤイヤ度が減って、工夫して書くと楽だからやりやすい。
- ③かめら絵日記は習慣化したい。
- ④筆順アプリは便利で書けばすぐに練習する字がすぐに出てくるので、わかりやすい。
- ⑤Keynoteは、アニメーションや入力方法が楽しかったし、作りやすかった。手順表は、たまにめがねの確認を忘れたか気になるけど、最近確認するようになった。
- ⑥パイトークでは、楽しいこと・気になること・何でも相談などができて便利。
- ⑦カウントログで行った4つの行動については、習慣化しもっとがんばりたい。

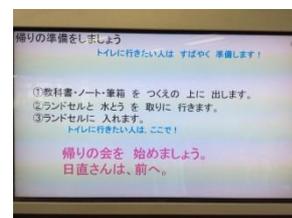
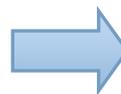
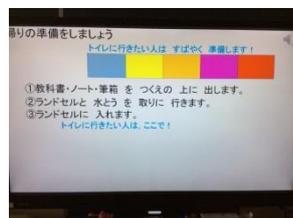
※ほとんどの感想が、自分でやるようになったことが増えたり、安心

【 その他のエピソード 】

○自分の思いを表現する一つとして、書き初めを行った。今年の目標を漢字一文字で表したが、何事も楽しく取り組みたいという願いから「楽」という字を書いた。通級指導教室で発表した後、ワークスペースに掲示することで全校児童や保護者に見てもらえるようにした。大変不安が強く、何をやるにしてネガティブに受け止め、活動すること自体に心配がつきまわっていたが、自分の気持ちを正直に表現できるようになった。



○学級では、UDの視点で、電子黒板を使って、見通しを持った帰りの準備を視覚的支援として担任が全員に提示したことで、クラスの友達からの声かけもあり、本人のスムーズな動きにつながっている。色の帯は30秒ごとに消えていくようになり、終了までの時間を意識できるようになっている。オルゴールのBGMも流れ、しゃべらずに音楽を聴きながら心を落ち着けることができる。



今後への見通し

- ・活動の見通しや確認の方法を持つことで、生活がしやすくなってきているが、まだ、学校生活の中では、要領良くできなかつたり、臨機応変に対応できなかつたりする。これからも、多くの体験を積みながら、普段の生活でいつも確認しながら進めることで安心できるようにしていきたい。また、スムーズに活動を確認できるように i B o o k で、一連した管理をしていくなど、確認する方法を整理することで、さらに、安心感につなげていきたい。
- ・個別で学んで有効だったことを、学級や家庭と共有しあい、本児の取組の充実につなげていきたい。
- ・思いや考えを多様な表現で伝えられるように、BY TALK FOR SHOOOLは継続していきたい。
- ・在籍学級の担任とは、更に、連携を強化し、めあてが達成できるように協同体として進めていきたい。